

先端研究施設共用促進事業

「安定同位元素イメージング技術による産業イノベーション」利用成果報告書

北海道大学 創成研究機構長 殿

下記の通り、利用成果を報告します。

| | | | | |
|-------|---|------------------------------|--------|----------|
| 利用者名 | 京セミ株式会社 | | | |
| 代表者 | 氏名 | 澤田映 | 役職 | エンジニア |
| | 所属部署 | 製品開発部技術第1グループ | | |
| | 所在地 | 〒061-1405 北海道恵庭市戸磯 385-31 | | |
| | 電話番号 | | FAX 番号 | |
| | メール | | | |
| 連絡担当者 | 氏名 | 西村諭一 | 役職 | グループリーダー |
| | 所属部署 | 光デバイス開発部 | | |
| | 所在地 | 〒061-1405 北海道恵庭市戸磯 385-31 | | |
| | 電話番号 | | FAX 番号 | |
| | メール | | | |
| 利用課題名 | 光通信用受光素子中のジャンクションプロファイル分析 | | | |
| 利用施設名 | 北海道大学 同位体顕微鏡システム | | | |
| 利用期間 | 平成 21 年 5 月 12 日 ~ 平成 22 年 3 月 31 日 | | | |
| | <input type="checkbox"/> 報告書公開の延期を希望する。(平成 ____ 年 ____ 月まで) | | | |

●利用成果

【利用の目的・内容】 異分野の方にも理解できるよう簡潔に記述してください。

光通信用受光素子の機能改善を目的とした基礎研究

【成果の概要】

ウエハ中にジャンクション形成を行い、その深さ方向プロファイルと同位体顕微鏡により測定する。
プロファイルを確認することでフォトダイオードの受光波長依存性を確認することができた。

【社会・経済への波及効果の見通し】 研究成果によってもたらされる知的資産の形成、新技術の創製などを記述してください。

ジャンクションプロファイルと素子特性との関係を明らかにすることにより、製品の性能向上を追求し産業応用へと発展させる。

| | | | |
|-----|------------------|-----|----|
| 受付日 | 平成 23 年 4 月 19 日 | 受付者 | 阿部 |
|-----|------------------|-----|----|